

防音室設置 完全チェックリスト

音楽家&防音専門家による後悔しないための防音計画ガイド

【防音室の目的編】

□ 防音室の目的を明確にする

- 何のために防音室を設置するのか具体的に書き出す
 - 楽器演奏（楽器の種類：_____）
 - テレワーク・オンライン会議
 - 動画・音声配信
 - 集中作業・勉強
 - その他（_____）

□ 必要な防音効果のレベルを設定する

- 必要な遮音性能を確認する
 - 軽い防音 (20-30dB)：通常の会話レベルをカット
 - 中程度の防音 (30-40dB)：ギターなど中音量の楽器に対応
 - 高度な防音 (40-50dB以上)：ドラムや大音量の楽器に対応
- 音の発生時間帯を考慮する
 - 日中のみ
 - 夜間も含む
 - 深夜も使用したい

□ 具体的な活動内容を詳細に考える

- 利用人数：_____
 - 利用頻度：_____
 - 使用機材・設備：_____
 - 必要な広さ：_____
 - 活動内容の特記事項：_____
-

【予算・場所編】

□ 現実的な予算計画を立てる

- 総予算額：_____ 円
- 内訳の目安
 - 防音材料費（総予算の40-50%）：_____ 円
 - 施工費（総予算の30-35%）：_____ 円
 - 換気設備（総予算の10-15%）：_____ 円
 - 電気工事（総予算の5-10%）：_____ 円
 - その他・予備費（総予算の5-10%）：_____ 円
- 予算超過時の優先順位を決める
 - 妥協できない部分：_____
 - 必要に応じて簡略化できる部分：_____

□ 最適な設置場所を選ぶ

- 建物の構造強度（床荷重）を確認する
- 上下左右の隣接空間との関係を考慮する
- 自然光・窓の有無と換気計画を立てる
- 電源の配置と容量を確認する
- 搬入経路を確保する
- 騒音源からの距離を考慮する

□ 賃貸物件での注意点を確認する

- 管理規約で楽器演奏や防音工事が認められているか確認する
- 原状回復義務の範囲と退去時のコストを把握する
- 大家さんや管理会社の許可を得る
- 取り外し可能な防音対策の検討

【方法・業者編】

□ 最適な防音方法を選ぶ

- 防音室ユニット（高額/高性能：100万円～）
- 浮き構造工法（中～高額：50万円～）
- 防音パネル/吸音材（低～中額：5～30万円）
- その他の方法：_____

□ 防音材の選び方を理解する

- 遮音材と吸音材の違いを理解する
- 質量則と空気層の確保の原則を踏まえる
- 必要な材料リスト：
 - 遮音材：_____
 - 吸音材：_____
 - その他必要な材料：_____

□ 信頼できる業者を見極める

- 実績と施工例を確認する
 - 過去の施工事例（写真/動画）
 - 可能であれば実際に訪問して効果を確認
- 防音効果をデシベル値で明示しているか確認
- 見積もりの透明性をチェック
 - 材料費・工事費・諸経費の内訳が明確か
- アフターフォロー体制を確認する
 - 施工後の不具合対応
 - 相談窓口の有無
- 候補業者リスト：
 1. 会社名：_____ 特徴：_____
 2. 会社名：_____ 特徴：_____
 3. 会社名：_____ 特徴：_____

【設置後の注意点】

□ 定期的なメンテナンス計画を立てる

- メンテナンス項目と頻度
 - ドアや窓のパッキン部分の劣化チェック（半年ごと）
 - 壁と床の接合部の隙間チェック（半年ごと）
 - 換気システムの清掃・点検（3ヶ月ごと）
 - 防音材のたわみや劣化チェック（年1回）

□ 換気と湿度管理の準備をする

- 換気システムの選定
 - 24時間換気システム
 - 定期的な手動換気の計画
- 湿度管理対策
 - 湿度計の設置
 - 適正湿度（40-60%）の維持方法
 - 除湿機/加湿器の準備

□ 騒音トラブル防止の対策を考える

- 使用可能時間帯のルール設定
- 近隣への挨拶や関係構築の計画
- 実際の音漏れ状況の確認方法

メモ欄

（自由に使用してください）

作成日： _____

監修：防音・騒音対策のスペシャリスト

このチェックリストは防音室設置における一般的な注意点をまとめたものです。状況に応じて専門家に相談ください。